

ほめて、しかって、根気よく 6 子どもの心を育てる「子育てのコツ」

子育ての中で最も悩むのが「しつけ」です。ただしかるだけでは何の意味もありません。2歳を過ぎる頃から子どもは「なぜしてはいけないのか？」という「理由」を理解できるようになってきます。その理由の基準となるのが「心」。例えば、「道に飛び出してはいけません」の理由は「事故で死んでしまうかもしれない」「パパもママも悲しい」という心です。日常の遊びや会話の中で、子どもの「心」が育つよう導いていきましょう。

しつけ

〈根気よく、分かるように教える〉

同じ動作を何回も繰り返すことによって、自然にその行動が身に付いてきます。分かりやすい言葉で丁寧に何度でも教えましょう。

〈親がお手本をみせる〉

判断力が十分でない子どもにとって親は身近にいるお手本です。子どもは実際に見たり聞いたり行動したりしながら、一つひとつ覚えていきます。

〈子どもの自発性を大切に〉

親から言われてから行動するのではなく、自ら進んで行動できるように仕向けることが大切です。たとえ失敗しても、励まし、自分で決定して行動させるよう心がけましょう。

× **なんでわからないんだ。何度も言っているだろう！**
イライラせずに、何度でも丁寧に教えましょう。



○ **横断歩道を渡るときは手をあげて渡るよ。**
パパがお手本となります。



しつけと称して叩くのは児童虐待です！

ほめ方・しかり方

〈努力を認める〉

少しでも良い点や前より進歩したことがあったら、ほめましょう。たとえ、前より進歩がなかった場合でも、一生懸命やったのであれば、子どもの努力を認めましょう。子どもはほめられることで、自信と意欲が育ちます。

〈出来るだけ一貫性を守って対応する〉

同じことをしているのに、昨日と今日の対応が違ったり、パパとママの方針や厳しさが異なっていると、子どもが混乱します。例外をつくらず、一貫した対応が大切です。ママが祖父母との育児観の違いで悩んでいたら、パパはママの話を十分に聴いてあげてください。でも、しかられた子どもにとって、祖父母という逃げ場があることは悪いことではありません。祖父母の育児の知恵も貴重なアドバイスです。

〈自分や他の人が危険となる場合は強くしかる〉

道路などで遊んだり、火遊びや刃物をもって遊んでいるような場合は、強くしかる必要があります。その時は、自分や他の人を危険にさらしてしまうことを納得させることも忘れないでください。

○ **飛び出しちゃダメだよ！**



〈愛情をもって対応する〉

しかることは、悪い行為を改めさせるのが目的です。度が過ぎたり、体罰を与えることは、子どもを萎縮させ、怖いからという理由だけで善悪のけじめが身に付きません。また、子どもの自尊心を傷つけることもあります。子どもと目線を合わせて、具体的にほめたりしかったりすることが重要です。そうすることによって、一層親子の絆が深まります。

× **言ってわからないなら、こうしてやる！**
体罰や度が過ぎるしかり方はダメ！



○ **たとえ出来なくても一生懸命やったことはほめてやりましょう。子どもの自信とやる気を促します。**

